

日本爬虫両棲類学会



日本爬虫両棲類学会 in 栃木

The 47th Annual Meeting of the **Herpetological Society of Japan**



ポスター発表の様子

爬虫類と両生類に関する研究者の総本山、「日本爬虫両棲類学会」の年一回の大会（今年で47回目）が、10月25（土）～26日（日）、**栃木県で初めて**開催された。（ちなみに昨年度は沖縄の琉球大で開催。私は会員ではないが、今回、スタッフの一人として運営に係わった。）

日本爬虫両棲類学会は、現在、京都大学に本部を置く学術団体で、会員数は約450名。毎年、大会は、全国（北海道から沖縄まで）から150名以上の**研究者や愛好家**が集まる最大のイベントであり、活気がある。もちろん、会員以外でも参加することは可能である。

大会での発表は**口頭発表**（発表12分＋質疑応答3分）と**ポスター発表**（パネル：幅90cm×高さ180cmに掲示する）からなり、それぞれ工夫を凝らした発表を行っている。（発表では、内容はもとより、プレゼンテーション能力が重要だ。）

口頭発表は、やはり**学会の華**で、両生類25、爬虫類19の発表が2会場に分かれて同時進行で行われた。例えば、両生類では、「日本産カエル類に対するカエルツボカビ感染実験の進捗報告」（松井久美：麻布大 他）、爬虫類では、「核DNAの配列変異に基づくミナミシガメの個体群分類の再検討」（藤井亮：琉球大他）などがあり、各自が興味のある発表をその場で自由に聞くことができる。

一方、**ポスター発表**は、口頭発表に比べるとやや簡便な発表というイメージもあるが、発表者がポスターの前にいるので、あまり時間を気にせず**発表者から直接話を聞くことができる**という大きなメリットがある。今年は、両生類20、爬虫類16のポスター発表があった。例えば、両生類では「テレメトリー法によるキタサンショウウオの行動圏調査」（太田宏：東北大 他）、爬虫類では「アカミミガメとクサガメの潜水行動の比較：種間競争と種内競争の観点から」（森貴久 他：帝京科学大）など、おもしろそう？なテーマが目白押しなのであった。

ところで、今回発表を目の当たりにし、高校時代から伝えたい内容をわかりやすく説明できる力をぜひ身につけて欲しいと感じた。そして、個人的には、将来、この学会で発表するような研究者が佐高生から誕生すればいいと思っている。

ポスター発表の一例→

